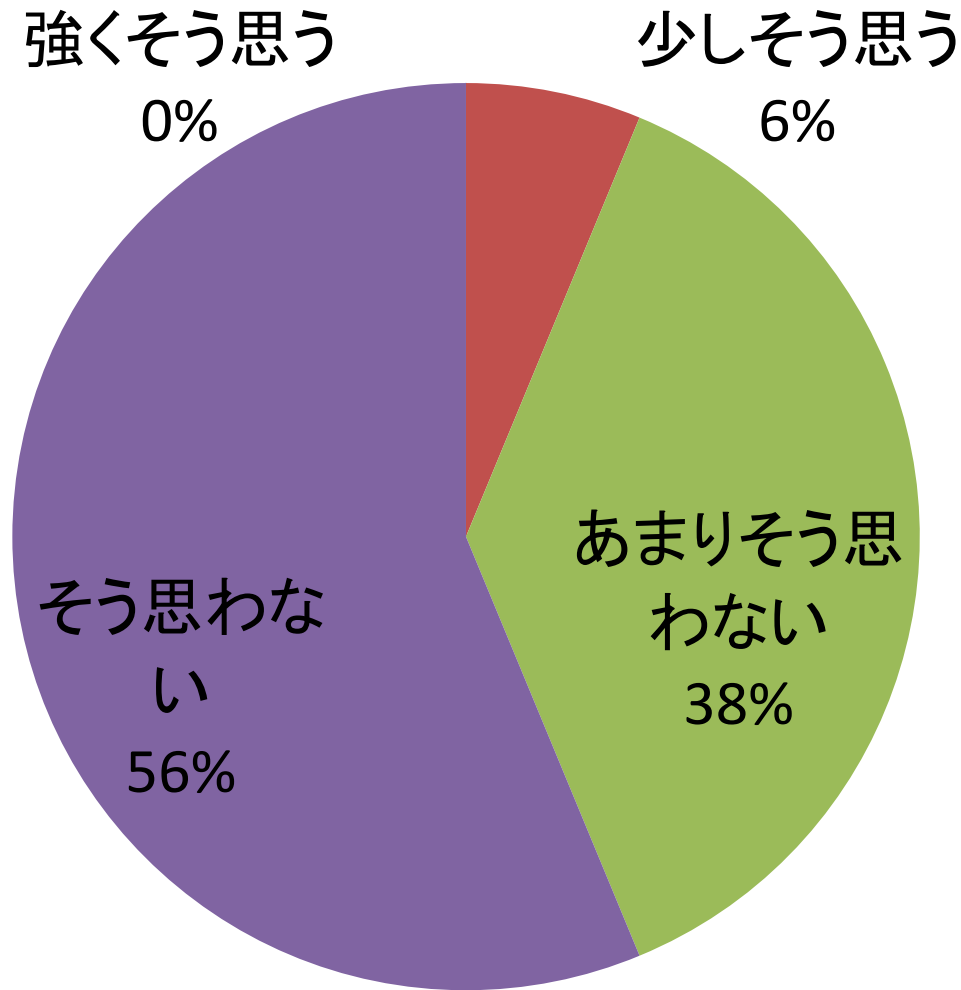


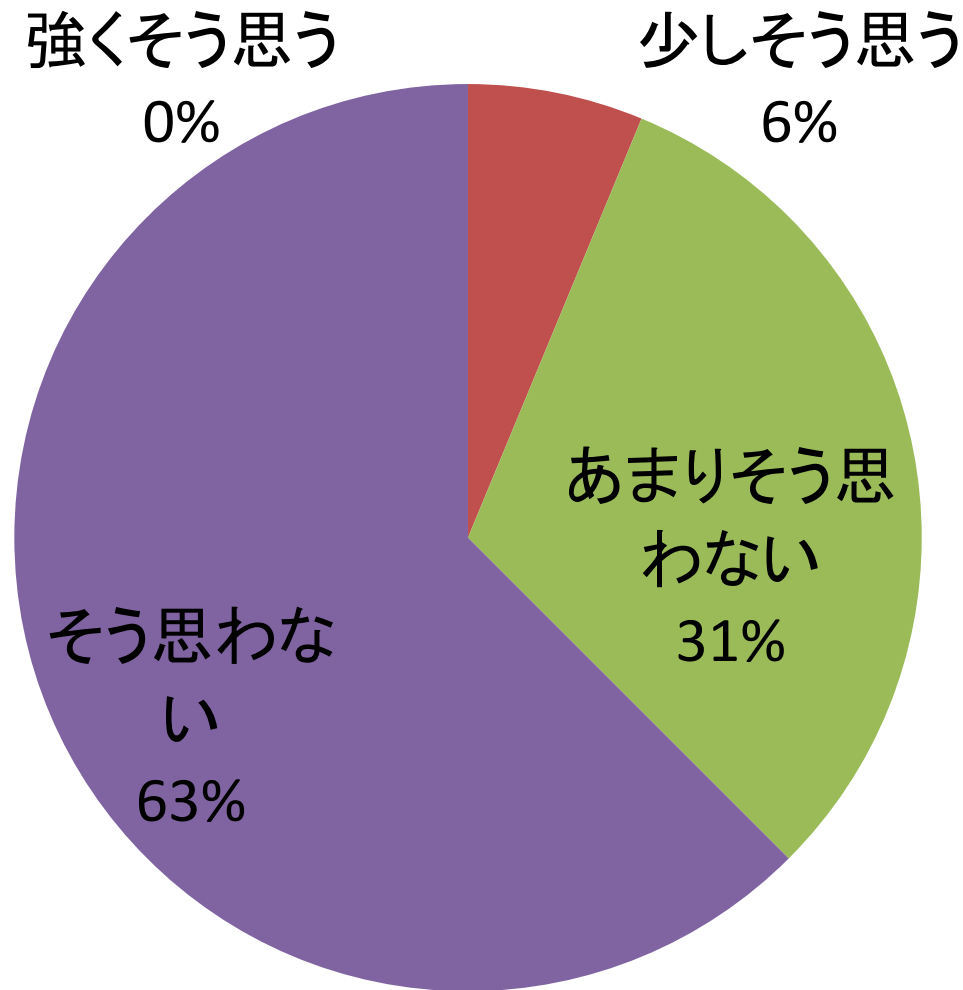
みんなでがんの施策と予算を 考えよう

第2回がん対策に関するタウンミーティング

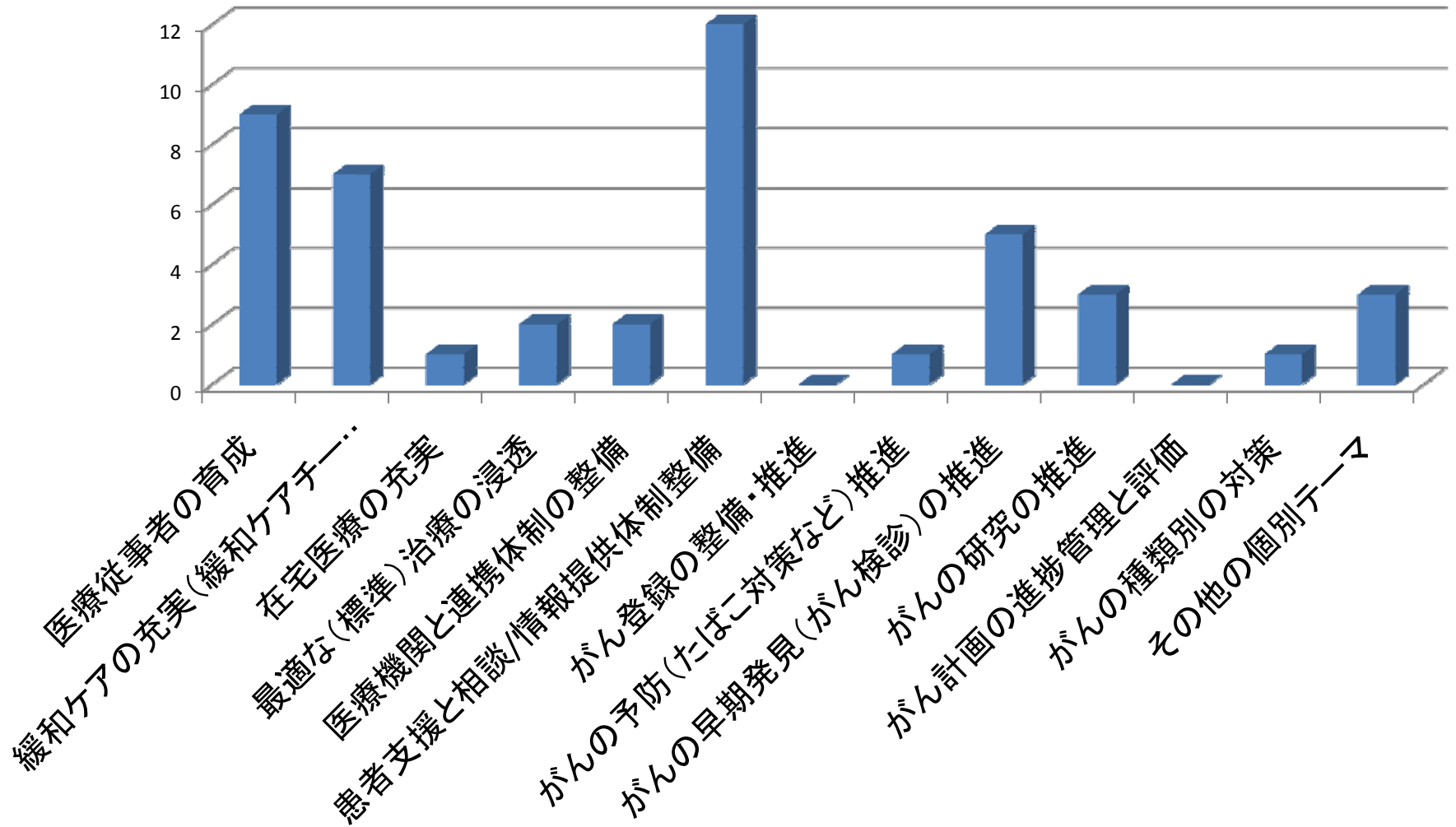
問1 現在の「がん対策」に満足されていますか。



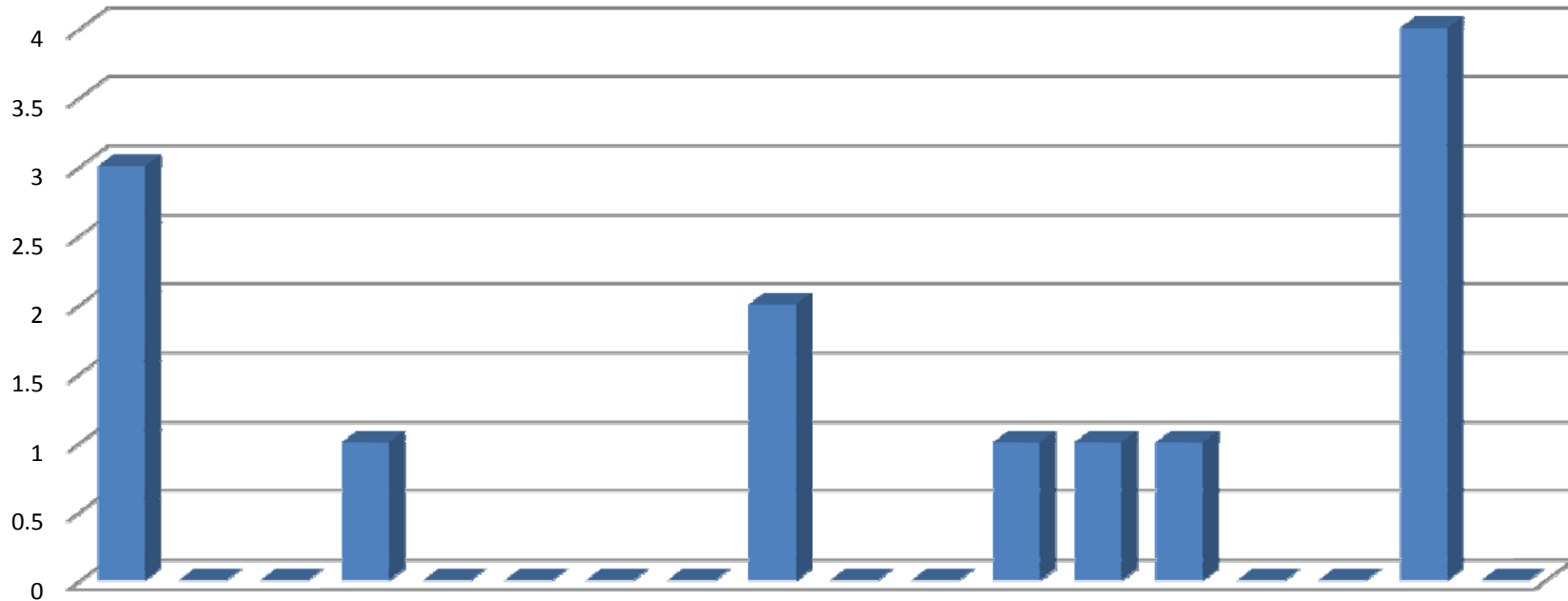
問2 現在の「がん対策のための予算」は十分だと思えますか。



問3 がん対策でもっとも重要であると思うテーマは何ですか。



※ ご自身に関して



がん患者、がん経験者
がん患者家族、近い友人など
ご家族などを、がんで亡くされた方
がん患者支援者、ボランティアなど
1~4に該当しない方
医師会、看護協会などの職能団体
都道府県がん診療連携拠点病院
地域がん診療連携拠点病院
その他の病院
診療所
在宅緩和ケアスタッフ
都道府県庁関係者
市町村関係者
政治家、議員
メディア/マスコミ関係者
学者/研究者
医療関連産業
その他

がん対策について

- 現在の問題点・課題
- 実施してほしい対策と予算措置

○ 現在の問題点・課題

がん対策について

現在の問題点・課題①

- 今年5月に腎盂癌で全摘手術を受けました。化学療法の予定でしたが、化学療法の治療効果の有用性のデータがないということで経過観察をしています。本で詳しい情報が得られず、今後どのようにして日常で注意していけばいいか不安に思っています。
- 緩和ケアの専門医・専門看護師の不足
- 市町村の「がん対策」に対する理解の促進

がん対策について

現在の問題点・課題②

- 予算が県別に振り分けされているが、その配分の仕方が疑問
- 血液内科医の不足により、十分に医師が患者と付き合える時間がない(リンパ腫患者さん)
- 病院にある相談支援センターに行ってもフォローがない
- 他の国で承認されている薬でも、日本では未承認薬が多すぎ

がん対策について

現在の問題点・課題③

- 診断を受けた時に緩和ケアチームのかかわりが欲しいです
- がん検診の通知などが実施されているがまだ不足である
- 沖縄でも行政および医療機関で情報をホームページに掲載すれば基本的に情報は提供したことになり、また情報を開示したこととして処理している。よって県民は無理なく普通の生活の中で正しい情報が得られない状況におかれている。

がん対策について

現在の問題点・課題④

- 患者とその家族の支援の充実を望む。地域が密なつながりを持っている分、知られたくないと思う患者の生き場がない
- 緩和ケアチームの質が高くない(緩和ケア医不在など)
- コメディカル(ナース)が専任(又は、業務として)ない
- 相談支援センターを患者や家族が活用しきれていない。広報活動、普及活動の限界ピアサポーター養成が進んでない。

がん対策について

現在の問題点・課題⑤

- ・病院が疲弊していてDrナースに余裕がない状態では医療者と患者とのコミュニケーションが取れない。それが、患者にとって不満・不快感に繋がっている。
まず、医療従事者の育成と十分な人材配置は必要。
そこから、専門医やナースの育成が必要。
- ・Drとナースの待遇が悪く、忙しい環境でストレスを抱え働く 医療従事者のことを思うと、患者としては多少遠慮してしまい色々なことで我慢してしまう。

がん対策について

現在の問題点・課題⑤

- 県内には地域に相談員が常駐するサロンが一つもない。
- 患者会(ゆんたく会やサロン)いえ出席するとメンタルサポートを必要とされている患者や家族、周囲の方々へ専門機関などを紹介出来ない。
- ホスピスを希望されていたり、充実した在宅医療への緩和ケアの体制が相当不足している。

がん対策について

現在の問題点・課題⑥

- 立ち上げているNPOなどのネットワークとの連携、必要なサポートや情報が開示されていない。情報開示の仕方。
- メンタルサポート、患者、家族、医療従事者を含み、専門的なケアチームや機関がなく、メンタル問題を抱えて辛そうな方々が行き場なく苦しまれている。

がん対策について

現在の問題点・課題⑦

- ・専門Drが不足していると思っています。厚労省と大学医学部が連携して全国拠点病院に専門DRの充実を図って欲しい。また、道州単位で、がんに関する研究が出来る大学病院を指定し、研究開発と充実を図って欲しい。
- ・拠点病院とサロンが中心となって、拠点病院以外のがん治療をしている病院と連携体制を整備し、各病院がサロンを備え、患者とその家族のトータルサポート出来る体制を早急に整えてもらいたい。

がん対策について

現在の問題点・課題⑧

- ・教育相談できるトータルサポート・コーディネート部門部署(サロン)を拠点病院と同じ、数だけ設置してほしい。拠点病院以外でもがん治療をしている病院はサロンへ支援して頂きたい。また、その体制を整えるため県はリーダーシップを図って頂きたい。
- ・必要と思われるベット数も国の基本方針に基づき削減されており、また患者の多くが心のよりどころである家族との在宅介護などを望んでいます。ほぼ全ての負担が患者家族にかかっているのが現状。

○ 実施してほしい対策と

予算措置

がん対策について

実施してほしい対策と予算措置②

- 家族のこころのケア。身体的ではなく精神的な不安、疲れの相談の場がない。気軽に行ける場所の設置とそれにかかる金銭的な援助もほしい
- 早期発見のための検診の通知を一層強化する。
- 検診を受けるのに気がねがいらぬような職場などの環境整備（検診を公的制度的な扱いにする）

がん対策について

実施してほしい対策と予算措置①

- 専門医・専門看護師の育成機関の設置と育成のための助成金等の充実
- がん診療連携協議会へ市町村職員の参加
- 診断を受けた時に緩和ケアチームの関わりにかかる予算
- 種類別のがん対策、患者(家族)支援、相談、情報提供体制がもっと整備され話も気軽に相談できる機関が欲しいと希望しています

がん対策について 実施してほしい対策と予算措置③

- 緩和ケア医を配置、拠点病院だけでなく緩和ケアチームのある病院で、コメディカルが参加しやすいような整備をしてほしい。
- 広報、普及活動のための予算をつけてほしい。商工産業の分野にも協力を依頼してほしい。
- サロンをつくるための整備（人事、予算）
- 緩和ケアの専門職者やカウンセラー、チャプレンなどの方々の養成や雇用体制を強化、病院への施設を徹底して欲しい。

がん対策について

実施してほしい対策と予算措置④

- 県へは、心のケアサポートの市民セミナーや講演会（患者、家族向けの有識者とのディスカッション形式で。）
- ホスピス病棟、ホスピス施設の立ち上げ、人材の育成、サポートネットワークとの連携で、病院でなくてもホスピスのような場づくり
- 県と医療機関、自治会やNPOなどとのサポート関連団体と、団結して情報の格差がない体制づくりを整えて欲しい。

がん対策について 実施してほしい対策と予算措置⑤

- ・沖縄では利用使用しているものの県民に占める割合は30%を切っています。これで利用・使用できない県民を切り離すことと等しいと考えます。よって
パブリックコメント発信・抜本的な考えを変える方法がありません。また、その使用に対する最低限の予算措置を行わないと、県民に対する背信行為となると考えます。

がん対策について 実施してほしい対策と予算措置⑥

- ・在宅での介護、医療がスムーズに行えるように医療器具などの貸し出しを、利便性が有り、利用しやすい価格で提供出来る体制の整備、介護等の医療行為の拡充、医療従事者の往診体制、整備に対する予算措置が必要と考えます。

がん対策について 実施してほしい対策と予算措置⑦

- 県民すべてに情報が行き届くようにしてほしい。
。インターネットのみの提案でなく、それ以外の方法も考えて欲しい。
- 患者の声を聞く環境を作ってほしい。
- 県も病院もがん対策に取り組んでいることを周知する努力として、メディアを活用したり、チラシやパンフレットの作成など、

がん対策の立案プロセス、がん対策のための予算(財政)措置など

- 現在の問題点・課題
- 実施してほしい対策と予算措置

○ 現在の問題点・課題

がん対策の立案プロセス、予算(財政)措置 現在の問題点・課題①

- ・患者とその家族遺族では運営が困難、都道府県単位で支援する体制の整備と、がん治療をしている病院全体で拠点病院のサロンへの支援が求められる。また、サロンは拠点病院だけでなくがん治療を実施している病院の患者さん達すべてをサポートする体制と、拠点病院と各病院の連携が求められる。

がん対策の立案プロセス、予算(財政)措置 現在の問題点・課題②

- ・ がん治療費用が高く、治療を中断される・症状が悪化され来院するケースあります
- ・ 今、医療従事者が中心になって、がんばっているのですが、患者・家族・行政・マスコミ・一般の方もそれぞれの立場を考え、努力していく必要があります。

○ 実施してほしい対策と

予算措置

がん対策の立案プロセス、予算(財政)措置 実施してほしい対策と予算措置①

- 行政、医療、民間団体、患者様全体で一丸となって歩み寄りに対策が進んで欲しい。全ては、患者様の求めている事かれ実現に取り組んで欲しいです。
- 透析患者さまのように一定額の負担にしていただけると嬉しいです。

がん対策の立案プロセス、予算(財政)措置 実施してほしい対策と予算措置②

- ・タウンミーティングのような全体で考え、討論していく会や、がんについて考える機会がもてる、フォーラムや講演会などの催しものを定期的に開催してほしい。
- ・県民にがんについて、関心を持ってもらうことが必要だと思います。